

哀れな人間ドック信奉者

「信奉」というより「信仰」に近いのではないか。この1年間で少なくとも3人以上、同じようなのを見た。

昔々、「3 バカ大将」だったか、というのが人気があった。(最近ではイラクの3 バカがいるが) 米国の映画かテレビ番組だったような気がする。ひとりや2人は変なのがでてきてもおかしくはないのだが、3人寄れば文殊の知恵どころか、もっと多くの人がこの範疇にはいるかもしれない。曾参人を殺すという逸話があるが、**3人これを疑えば**という話である。(註: 若い人のために簡単に話をまとめると、若くして人格者であった曾参(ソウシン)について、ある人が、曾参が他人を殺した、とその母親に告げた。この情報は間違いなのだが。母親は、そんなことを私の息子がするはずがない、と相手にしなかった。さらに別の人が同じことを告げる。それでも母親は動かない。ところが3人目が同じことを告げるとさすがの母親も仕事を放り出して曾参のもとに駆けつけた、という故事から来ている。) 山本夏彦さんが言う、・・・・かたく信じているものの心を翻すことはできないからそれをしようとは私は思わない。ただ知らないでどっちつかずにいる人たちに言う。(「戦前という時

代。」・・・戦前の 15 年間で暗黒時代だと主張する文化人や史家を否定して・・・というより罵倒して。彼らは知っているのにあたかもそうであったように歴史を歪曲して伝えようとするからである。）

さて表題の「ドック信者」の話。数ヶ月で 20kg やせた、という。胃 X-p を撮ると明らかな**胃がん**である。「すぐに胃カメラをして早急に手術しなければならない」と言うと、何を考えているのか、「**来週人間ドックに行きます**」と言う。かなり丁寧に急ぐのだと説明したのだが、理解しない。「そりゃあまあ、あなたの身体だから自分で決めはったらよろしいけど」と説得を諦めた。まあ、こっちもそれほど執着があるわけでもない。あとどうなったかについても手を離れた時点で興味はないし、礼を失した連中はどこにもいる。

ドックはどこかに書いたが船渠で船の点検修理をする場であり、50 年くらい前から人間にも応用して癌や循環器疾患などを早期に発見しようとするもので、治療については他院に任せることになる。当初は 1 週間入院して検査していたが、昭和 40 年代半ばごろからコンピューターを駆使して「1 日ドック」や「半日ドック」が値段も安く、時間もとられないから手軽に利用できるようになった。現在もそうなのだが、値段に応じて、また各施設によってそれなりの

工夫をして検査する内容はいろいろある。最近、PL のドックで、コレステロールの値を「適当に」書いていることがわかってかなりいい加減な所もあることがわかった。まあ、営利目的だからやむを得ない面もあるが。それはともかく、胃カメラや大腸カメラ、超音波エコー、CT スキャン、MRI などなどいろいろ考えている。

検査の内容をどうこう言うのではない。そこから得られた結果を読み取る側の能力を問うのが、小生の本来の意見である。・・・ところが、たとえば血液検査の判定に疑問だらけなのである。いちいち取り上げてかみつく気はさらさらないが、たとえば、LDL-コレステロールの値が 162mg/dl (基準値は 139mg/dl 以下) だから至急に治療が必要だと記してある。患者はとんで来て、ドックの判定を鵜呑みにしている。つまり、ドックに入ればあらゆる病気に対応できるものと錯覚している。・・・なんのことはない、以前に書いた「大病院病」と同じ発想である。

さきの LDL-コレステロール高値の人は、治療をする方がウチは儲かりますが、必要がないと思う。そこで再度こちらで採血したら 143mg/dl で、まったく治療など必要ではないし、そもそも基準値そのものに何の疑問も抱いていないのである。血圧やその他の検査

値についても同様である。・・・つまりドックの判定者の目的は**数字**を是正することであって、**患者の治療は二次**なのである。**全人格的に診てほしい**という患者側の要求に答えていないわけです。

一般に、ドックの医師は治療を念頭においていない（失礼を省みず書けば、治療ようせえへんねん）らしい。だから**判断能力に異議あり**です。また超音波エコーにしても器械がふるくて写真がきれいとれないのはいくらでもありそうだし、胸部 X 線写真も間接撮影の所も多い。胃 X 線写真も同じかもしれない。・・・ウチはちがいます。最新のデジタル撮影機だからそれだけでもレベルが違う。

以前にも書いたが、「異常なし」とあるが、「そんなはずはない。では私の所で撮影してみましよう」・・・眼底写真だったのだが**異常**だらけ。患者が「こんなもん、いらんわい」と結果を破り捨てた。この程度の話なら笑い話ですむが、**癌の見落とし**が怖い。（当然具体的な例を知っています。）

当初の 3 バカ大将。来週ドック行こ。胃がんの人もドックに行った。正しい診断をしてくれればいいが、それより 1 週間という時間が惜しい。要するにオレの診断能力が低いとともに**治療をする能力がない**、と言いたいらしい。「まあ、あなたの人生だからお好きなよ

うに！」としか言いようがない。

胸に水が貯まっているから治療を急ぐ、と親切に言ってやっても
「おかしいのはお宅の（器械の）方でしょうが！」・・・だからあなたの人生だから、お好きなように。

最も重要なことは、健康診断（これを行うことがここの診療所に来たときの条件である）で何か疾患がみつければ治療に専念することも大切なのだが、私個人の診断を忌避し、かつ無礼な態度を示し、「ドックの方が優れている」と信じこんでいることである。・・・
ナントカにつける薬はない、と言うが、もっとも肝腎なことは、私個人が「治療の鬼」であることを知らないことである。常に「治療」のことを考えながら健康診断をしようとしていることを知らないことである。 次回にその証拠をお示ししよう。

2009.07.01.